

第1440回例会



ロータリーのマジック

- 会長：井上誠士 ■幹事：河田明成
 ■会報 IT 委員会：守屋 護(委員長)、森下新一(副委員長)、遠藤秀幸、齋藤紀美孝、関根正司、伊藤信吾
 ■例会場：中国名菜 敦煌(相模原市中央区相模原 2 丁目 13 番 1 号)
 ■例会日：毎週金曜日 ■事務局：相模原市中央区中央 3-7-9 リトルウッズ中央 301
 ■TEL: 042(714)1111 ■FAX: 042(714)1111
 ■E-mail: info@greenrotary.jp ■http://www.greenrotary.jp

DATE : 01.17. Fri

本日のプログラム

クラブ協議会「前期の報告・後期の計画」

1 月のお祝い / 定例理事会

DATE : 01.26. Sun

次週予告

「もちつき例会」移動例会

会場：喰処(クック)

□前回のプログラム／第 1439 回 令和 7 年 1 月 10 日(金)

点鐘 12:30 例会場：中国名菜 敦煌 3 階

斉唱「君が代」「奉仕の理想」

ソングリーダー 山本正司君

ピアノ奏者 田中知子さん

□出席表

会員	出席対象者	出席者	出席率	前々回修正率
45 名	43 名	25 名	60%	68.89%

事後 MU 高橋三叔

□ゲストスピーカー NPO 法人フェアスタートサポート

代表理事 永岡 鉄平様

コーディネーター 青山なつみ様

(⇒会長挨拶続き)

『ほしいもの日』

ほしいもの国内生産量 TOP の茨城県が干し芋の「干」の字を分解すると「一」と「十」になるほし芋を作る工程で重要な糖化に 10 日要する 1 月～2 月がもっとも美味しいタイミングという事です。

幹事報告 河田明成

佐々木ガバナーより、年賀状が届いております。あとの情報はそんなに重要ではないのですが、一応回覧板で回します。皆さんご覧ください。

(次回例会のお知らせ)

1/17(金)はクラブ協議会となりますので、各委員会の委員長の皆様は、必ずご出席ください。ご欠席場合は、代理の方をご指名ください。宜しくお願い致します。

会長報告

井上誠士

皆様、改めまして新年あけましておめでとうございます。昨年は、能登の地震・羽田空港の飛行機事故から始まった新年でしたが、今年は穏やかなお正月を迎えられました。皆様はどうでしたでしょうか。

さて本来、年初めのスタートはクラブ協議会を開催するのですが、スケジュールの関係で本日は、ゲストスピーカー NPO 法人フェアスタートサポート 代表理事 永岡 鉄平様・コーディネーター 青山なつみ様から卓話をさせていただきます。

また、本日は1名仲間が増えました。志村 真利さんの入会式がございますので、会長あいさつはこの辺で終了いたします。

今日は何の日、1月10日は、警察へつながる電話番号 110 を 1 月 10 日と見立てて警察庁が記念日に制定し全国の警察にて 110 番の有効性を確認、適切な利用を呼びかける事が目的とされています。余談 → 戦後間もない頃は、1110 番 大阪・京都・神戸 118 番 名古屋と地域によって警察への番号が異なり、全国で 110 番に統一されたのは戦後の 1954(昭和 29)年になってからのことでした。

『からし明太子の日』

1949(昭和 24)年 1 月 10 日、創業以来研究を重ねてきたからし明太子が初めて店頭で並んだことにちなんで、同商品の研究や製造を行っている株式会社ふくやが記念日に制定しております。

明太子は元々朝鮮半島に伝わる家庭の惣菜のひとつとして日本に伝わり、日本人の口に合うように味付けし直したものとされています。

『さんま寿司の日』

さんま漁の発祥地とされる産田神社(三重県)にて例年 1 月 10 日には、さんま寿司を食べる神事が行われていることにちなんで、三重県熊野市のさんま寿司保存会が記念日に制定しております。

『糸引き納豆の日 / 糸の日』

納豆は糸を引くことから【い(1)と(10)を引く】の語呂合わせにちなんで、全国納豆協同組合連合会が 1 月 10 日に記念日を制定しております。

『ひもの日』

干物の「干」の字を分解すると「一」と「十」になることにちなんで、ひもの専門店塩干の太助を運営する株式会社太助が「一」と「十」を 1 月 10 日に見立てて記念日に制定しております。(←続きは左へ)

児童養護施設と企業とのパートナーシップが 子ども達の社会参画の精度を高める

NPO 法人フェアスタートサポート 代表理事 永岡鉄平



代表理事 永岡鉄平

＜略歴＞

1981年2月横浜市生まれ。43歳。大学卒業後、リクルートグループに入社。もう1社を含めて通算5年間、企業の採用支援、学生の就職支援双方に従事。若者と雇用をテーマに、未解決な社会的課題に挑戦したいと起業を決心し、起業準備中に参加した勉強会で社会的養護の子ども達・若者達の存在を知る。親からの支援が見込めない中、高校卒業後18歳という若さで社会に挑戦するものの、多くがワーキングプアとなる彼等・彼女等の現実を知り、人材業界で培った経験を活かし、彼等・彼女等の就労支援を決心する。株式会社フェアスタートを2011年8月に起業。2013年1月には、NPO法人フェアスタートサポートも設立。現在両法人の代表を務める。

＜受賞歴＞

2010年9月 第1回社会起業プランコンテスト
(内閣府地域社会雇用創造事業)
最優秀賞

2014年2月 キララ賞
(かながわ若者生き生き大賞)

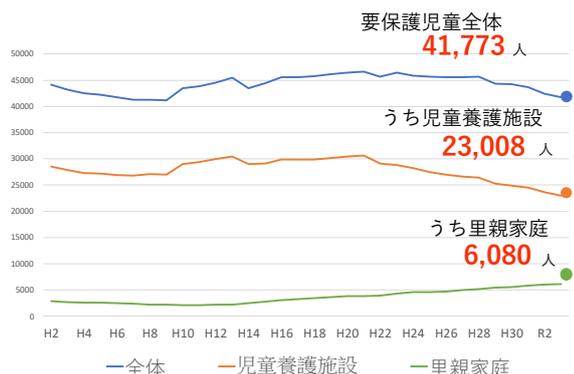
2017年7月 第31回人間力大賞
(青年版国民栄誉賞) 会頭特別賞

2017年12月 社会デザイン学会 学会奨励賞

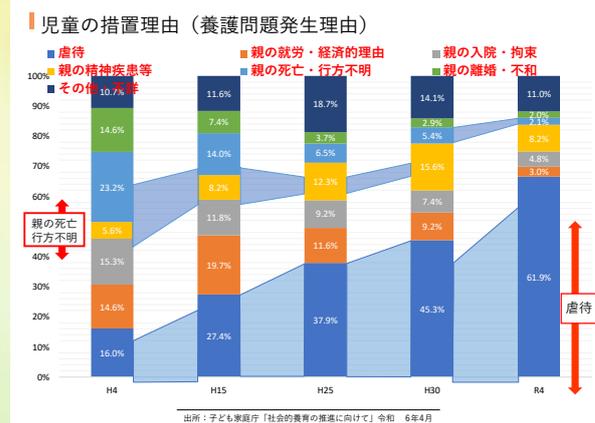
＜その他 役職員＞

横浜市 市民協働推進センター事業部会 専門委員 (令和2年8月1日より現在)
他 民間団体の評議員等複数

要保護児童数の推移



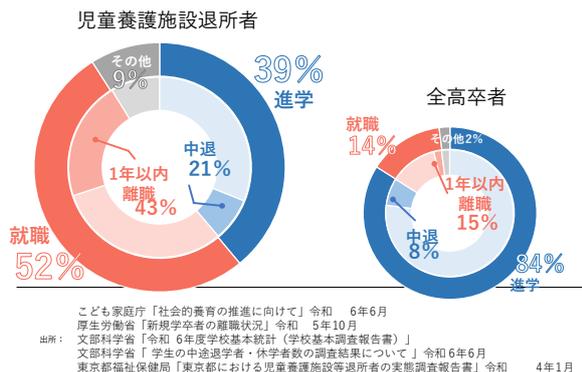
フェアスタートサポートでは、児童養護施設の子どもたちに対して、キャリア教育とアフターフォローの主に2つの支援をしています。現在日本には児童養護施設が約600施設あります。約23,000人が児童養護施設でくらしていますが、要保護児童数全体は約40,000人を超えています。



施設に入る子ども達の家庭背景としては、昔は、親の死亡や行方不明が多かったですが、今は虐待による保護が圧倒的に増えてきていて、全体の半数以上を占めるといわれています。児童養護施設の子どもたちの多くは、18歳になり、高校を卒業すると施設を出ることになります。その後は就職するにせよ、進学するにせよ、自立が求められます。虐待が背景にある場合、親が実在するケースがほとんどですが、親との関係性が良くないため、金銭面や精神面で頼れるとはいいがたいものがあります。結果的に、多くの子ども達は18歳で親を頼ることなく自立することになります。

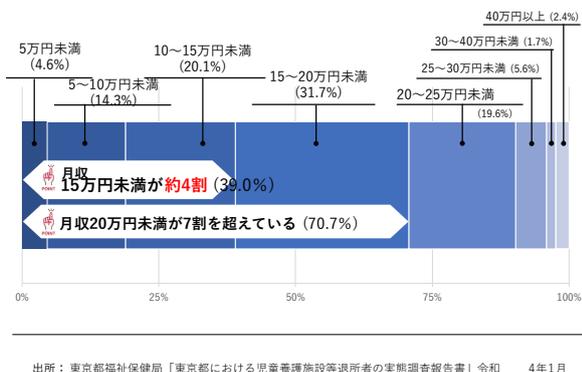
施設の高校生達は、高校卒業後、約4割が進学し、約5割が就職します。ここ数年で、施設の子ども達も給付型の奨学金を受けやすくなったため、以前のように進学するなら借金をしなければならないという状況は緩和しました。ただ、学費等は賄えても、日々の生活費は自分で稼いださなければなりません。結果的に、学業とアルバイトの両立に耐えられない等の理由で、進学者の約2~3割が中退をしている実情があります。就職者に関して、特にやりたいことがない高校生は、仕事の内容よりも、住み込みで働ける社宅のある会社、といった条件面優先の就職活動を行うケースが多く、入社後に仕事にやりがいを感じられない、などのミスマッチに発展し早期離職に至りやすい実情があります。中退や早期離職が起きてしまうと、正社員としての就職の難易度が上がり、結果的に多くの施設出身者が貴重な20代を非正規雇用、不安定な収入状況で生活をしている現状があります。いわゆるワーキングプアと呼ばれる状態です。

進学・就職後の状況



東京都が令和 4 年に発表した東京都内の児童養護施設の退所者へ収入状況の調査を行ったところ、約 4 割が月の収入が 15 万円未満であることがわかりました。最低賃金が日本で一番高い自治体でこの数字です。やはり安定した雇用形態で働けないと厳しい収入状況になってしまうことがよくわかります。

児童養護施設退所者の月収



このような状況を当団体は「かわいそう」と考えるのではなく、少子化、労働人口減少の日本社会において、せつかくの貴重な若い可能性が「もったいない」ことになっている、そう考えています。この課題を解決すべく、就労支援を行っているのが当団体です。そして、これまで約 10 年の活動の実践から、課題解決に向け大事なポイントが少しずつ分かってきました。

テーマは「未然予防です」高校 3 年生の進路選択の時に、将来自分はこういった仕事をしてみたい、こんな社会人になりたい、こうした「目標」を持たた状態で進学や就職ができれば、途中で早期にドロップアウトすることなく、力強い歩みが可能になると考えています。

また「自己決定」というキーワードもとても鍵になると考えています。誰かに決められた、促された人生ではなく、自分自身で自分がどのようなキャリアを築いて生きていきたいのかを決めていくこと、辛いことがあったとしても「自分で決めた人生だから」そう思えば、それが支えになるはずです。

そのために必要なのが、企業のサポートです。中学生や高校生時代に、地域の様々な企業とかかわりを持ち、仕事の見学や体験ができること、見学や体験を通じて各社の経営者や社員の方から励

まされること、社会人として大切な価値観を吸収できること、こうした機会をしっかりと提供することで、本人達の社会参画の精度が高まると考えています。

当団体が応援し、力強く就労継続できている

若者の特徴

- 01 ▶ 職業知識を得る機会や職業体験の機会に恵まれたこと
- 02 ▶ 多様な大人のロールモデルに触れ、様々な価値観を吸収できたこと
- 03 ▶ 自分で決めた感が強い状態で就職できたこと



実は「未然予防」と「自己決定」を意識しながら、施設の中高生達に様々な企業に見学や体験に行ける機会を提供してきた結果、見学や体験でお世話になった会社に就職したいという高校生達が出てきました。そして、そのようなご縁の中で就職が実現したケースの 1 年以内離職率は約 20% と、東京都が調査した施設出身者達の 1 年内平均離職率約 43% に比べてとても良いスコアとなっています。離職率が高い原因は本人達にあるのではなく、健全な就職活動における環境を私達社会が提供しきれていないことが大きな理由であると当団体としては実証でき始めていると考えています。

当団体はこれからの 10 年で、各地の児童養護施設と企業とが就労支援のテーマで連携していくこと、これの促進、コーディネートに力を入れて参ります。そのツールの一つとして、このような機会を提供して下さる企業の情報を各児童養護施設へ届けるための WEB サイト「フェアスタートパートナー」<https://fspartner.org/> も 2021 年に立ち上げました。是非多くの企業に、見学や体験に関する情報をご掲載いただきたいと思えます。そして、その情報を私達が各児童養護施設へ積極的に発信し、掲載企業とのコーディネート役も務めてまいります。もはや事業というよりは社会運動に近い動きもあるのですが、各地の企業が自分たちの地域の子どもの支援に当事者意識をもって貢献していくことはとても素敵なことだと考えています。是非こうした動きが日本に浸透していくよう、応援していただけますと幸いです。



委員会報告

§ 米山奨学委員会 代理報告者 井上誠士会長
米山功劳賞 7 回目 小川忠久君



§ ローター財団委員会 大澤重人委員長
ポールハリスフェロー表彰
6 日目 佐藤眞一君・3 回目 大澤重人君



§ クラブ・ラーニング委員会 北島直輝委員長
昨年 12/4 に新会員の林田純子さんを囲んで、委員会をしました。その結果を本日お配りしましたが、この資料をもとに 4/18 にクラブ・ラーニング委員会で卓話を行いますので宜しくお願い致します。また、志村さんが入会されましたので、懇親会を計画したいと思います。



『スマイル報告 犬飼久恵会員』



出席委員不在の為、急遽、代理報告の佐藤眞吾会員



推薦者の中村昌治会員より新会員 志村さんの紹介



<新会員の紹介>

氏名：志村 真利（しむら まさとし）さん
職業：造園緑化・土木工事
会社名：株式会社 志村緑地
役職：代表取締役



<他クラブ例会変更>

- ・相模原 RC 1/16(木)休会 ビジター受付無し
- ・津久井中央 RC 1/16(木) 移動例会 HK ラウンジ